

水薬を中心とした安全容器の普及に関する課題と解決の方向性について(論点整理)

安全容器の普及に関する課題

安全容器に関する課題・意見

- ・ CR化の取組が一部にとどまっている。
- ・ 口径が各社異なる。アタッチメント方式の場合、現在使用している容器に合うものがない。
- ・ 使いやすく、安価・安全な容器の技術開発についても検討が必要。
例) デザインコンペ、海外特許取得、新たな容器開発
- ・ 安全容器の利用を拡大した場合には、薬局の負担増が懸念される。
(使い方の説明、使い勝手に関するクレーム対応、経費の増加 等)
- ・ 安全容器を提供した場合に、調剤点数に加算できる制度変更ができないか。
診療報酬化には課題が多く、早急な実現は困難。
- ・ 水薬容器をマイボトルとして消費者が保持・保管する方策はとれないか。
再利用には、ボトルの衛生管理を確実に実施できる設備・体制等が必要。

消費者意識に関する課題・意見

- ・ 医薬品の誤飲防止には、適切な保管と利用が重要。
- ・ 安全容器について、消費者の認知度は低い一方、安全容器の必要性を感じている人は多い。
安全容器を知らなかった都民は約7割。必要を感じる人は約9割(アンケート調査結果)

その他の課題・意見

- ・ 他の医薬品等の容器にも安全容器を普及する取組が必要。
- ・ 誤飲の事故事例が分かりづらく、積極的な対応がとりにくい。

解決の方向性

基本的な考え方

誤飲防止のためには、
消費者に医薬品の適切な取扱方法について、きちんと理解してもらうことが重要。
薬局での安全容器利用について、現状の中で対応可能な取組を行う。ただし、利用拡大につながる環境整備等も不可欠。
これらについて、関係者が創意工夫をし、協力して取り組んでいくことが必要。

必要な取組

- ・ 消費者に対する
医薬品の取扱い方法の注意喚起
- ・ 薬局での安全容器利用拡大のための誘導策
(安全容器に関する普及啓発等)
- ・ その他医薬品等の製造事業者団体等への情報提供

【今後の課題】

より使いやすい安全容器の技術開発の検討